

# 仙台市 農政だより

2022年 秋号



とれたて仙台  
仙台の大地の贈り物

【発行】仙台市経済局農林部(農政企画課、農業振興課、農林土木課)

## 市長が西部地区で農業視察を行いました



水稲の生育状況の確認



有害鳥獣対策の確認



集団転作による大豆の生育状況の確認



自然薯の栽培状況の確認

9月1日(木)、農作物の生育状況や市内農業者の取組を把握するため、郡市長が農業視察を行いました。

青葉区大倉日向地区のほ場整備事業が実施されたほ場では、株式会社早坂農産の早坂代表取締役とJA仙台の藤澤代表理事組合長から水稲の生育状況や大区画による作付けの効率的な取組などの説明を受けました。

郡市長は「ほ場整備により作付けの効率化が進んだとの話を聞かせていただき、大変うれしく思う。また、水稲の生育も順調とのことで、このまま何事もなく収穫に結び付くよう祈っている」と話しました。

また、この日は同地区の農作物有害鳥獣対策の取組や宮城実践組合の集団転作による大豆生育状況のほか、同区芋沢地区で付加価値の高い農産物の生産に取り組む仙台芋沢自然薯研究部会の自然薯のほ場も視察し、西部地区の地域の特性を生かした農業の取組を確認しました。

【農政企画課企画調整係(電話:214-8265)】

## せんだい農業園芸センターでリンゴ狩りを開催中です



せんだい農業園芸センターのリンゴ



せんだい農業園芸センター  
みどりの杜ホームページ

せんだい農業園芸センターみどりの杜の観光農園では、今年も美味しいリンゴが大きく育ちました。

摘み取り体験は12月上旬まで、品種は「こうとく」「ぐんま名月」「宮美ふじ」「パインアップルふじ」「はるか」など、品種ごとに違う美味しさが楽しめます（有料・予約優先）。

また、現地では、リンゴやトマトの栽培の様子や取り組み内容を紹介しています。施設見学をご希望の場合は、事前にご連絡のうえお越しく下さい（案内付は有料）。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

【仙台ターミナルビル(株)荒井事業所(電話:762-9688)】

## 栽培体験講座を開催しました

市では、地産地消に対する理解を深めてもらうため、市内の小学生とその保護者を対象に全2回の「栽培体験講座」を開催しています。

8月末に開催した1回目の講座には、6組15名の親子が参加し、ダイコンの種まきと、ブロッコリー、キャベツ、ハクサイの苗の定植を体験しました。



丁寧に苗を植えました



熱心に植付の説明を聞く参加者

はじめに、担当の職員から、ダイコンの種は穴に2つつき、土をかぶせたら優しく手で押さえることや、苗を植えるときは、葉が隠れてしまうほど深く植えたり、反対に浅くなりすぎないように注意することなどを教わりました。

その後、「大きくなあれ」などと声をかけながら、親子で協力して、教わった通り丁寧に種まきや苗の定植をしていました。

この日種まき・定植した野菜は、10月末に行われる2回目の講座で、収穫体験や試食をして楽しめます。

## Midoriの取材日誌



2回目の講座で、試食とレシピ提案を担当します。この日播種したダイコンの品種は、煮崩れしにくく味がしみやすい「三太郎」とオールマイティに使いやすい「蔵の宮」。それぞれの違いが体感できる試食や、日々の食卓に活かせるレシピの提案を考えています。（野菜ソムリエ上級プロ 斉藤緑里）

【農政企画課農食ビジネス推進室(電話:214-8266)】

## 「せんだい次世代スマート農業・生産技術ゼミ」を開講しています

市では、生産性・収益性向上につながる実情に合ったスマート農業技術や生産技術の習得支援およびグループワークを通じた地域リーダーの育成を目的に、東北大学大学院農学研究科へ委託し、8月から「せんだい次世代スマート農業・生産技術ゼミ」を開講しています。

今年度は「Aコース（スマート農業）」「Bコース（生産技術）」「Cコース（新規参入者向け）」の3コースを設け、第一線の研究者による講義と先進事例を視察するカリキュラム内容で、総勢18名のゼミ生が3月上旬まで受講します。

8月上旬の開講式には、塾長である東北大学大学院農学研究科教授の伊藤房雄氏からの講話と(株)西部開発農産生産部長の清水一孝氏より基調講演をいただきました。

9月にはAコースの現地視察で青森県黒石市の(株)アグリーンハートを訪問し、4種類の直播の取組やスマート技術を用いたほ場管理、中山間部での有機栽培などについて視察しました。また、Bコースの現地視察では大崎市のJAG古川を訪問し、子実トウモロコシの取組について、生育中のほ場や収穫機械などを視察しました。

今後も講義や現地視察を通して、さらに学びを深めていきます。



基調講演の様子



Aコース現地視察の様子

【農業振興課担い手育成係(電話:214-7327)】

## GAPに取り組んでみませんか

GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) は、農業生産における各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。GAPに取り組むことで持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に繋がり、消費者や実需者の信頼確保が期待されます。

GAPの取組には、認証取得の有無は関係ない「GAPをする」という段階と、認証機関の審査を受けて客観的に証明できるようにする「GAP認証を取る」という段階があります。認証の取得には費用が発生しますが、「GAPをする」ことは気軽に始めることができます。

「持続可能な社会」への関心が高まっていますので、GAPの取組をご自身の農業生産工程に取り入れてみてはいかがでしょうか。また、市では、認定農業者、認定新規就農者、農地所有適格法人等を対象に、GAP認証の取得、更新に必要な経費の一部を助成しています。

詳しくは下記までお問い合わせください。

【農業振興課生産振興係(電話:214-8335)】

## Instagram「とれたて仙台」で生産者をご紹介します



生産者取材の投稿

農政企画課が運営する Instagram「とれたて仙台」では、旬の農産物や直売所、仙台産農産物を使った飲食店など、仙台の地産地消に関する情報を発信しています。

生産者をご紹介します投稿では、生産者の方を訪ね、ほ場の様子を案内してもらいながら、自慢の農産物や農業への思いなどを伺っています。

農政企画課では、Instagramでご紹介する生産者の方を募集しています。ご希望の方は、Instagram「とれたて仙台」をフォローいただき、Instagramのダイレクトメッセージでご連絡ください。



Instagram「とれたて仙台」

【農政企画課農食ビジネス推進室(電話:214-8266)】

## 米粉製粉機を使ってみませんか

せんだい農業園芸センターの加工棟で、米粉製粉機がご利用いただけます。

米粉は、天ぷらや唐揚げの衣に使うと、冷めてもかりっとした食感が続くのでお弁当におすすめです。また、水溶き米粉はダマになりにくく簡単にとろみがつくので、グラタンやシチューなどの料理にも、米粉をぜひ取り入れてみてください。



米粉で作ったグラタン

○利用できる方：市内にお住まいの方、市内に住所がある食品加工事業者

○利用料金：30分110円(税込)  
※10キログラムの米で約1時間かかります。  
使用は精米済みの米に限ります。

○申込方法：せんだい農業園芸センターへ直接予約

※詳細及び空き状況等は、せんだい農業園芸センターホームページ (<https://sendai-nogyo-engei-center.jp/>) からご確認ください。



米粉製粉機



せんだい農業園芸センター  
みどりの杜ホームページ

【せんだい農業園芸センター(電話:288-0811)】  
【農政企画課農食ビジネス推進室(電話:214-8266)】

【発行】仙台市経済局農林部(農政企画課、農業振興課、農林土木課)  
〒980-0803 青葉区国分町3丁目6番1号 表小路仮庁舎(仙台パークビル9階)  
電話 022-214-8265 FAX 022-214-8338(農政企画課)

◆Eメール kei008110@city.sendai.jp(農政企画課)  
◆HP <https://www.city.sendai.jp/kurashi/shizen/norinsuisan/index.html>



仙台市農林水産業ページ



とれたて仙台WEBページ